

I 調査結果の概要

1 漁業・養殖業生産量

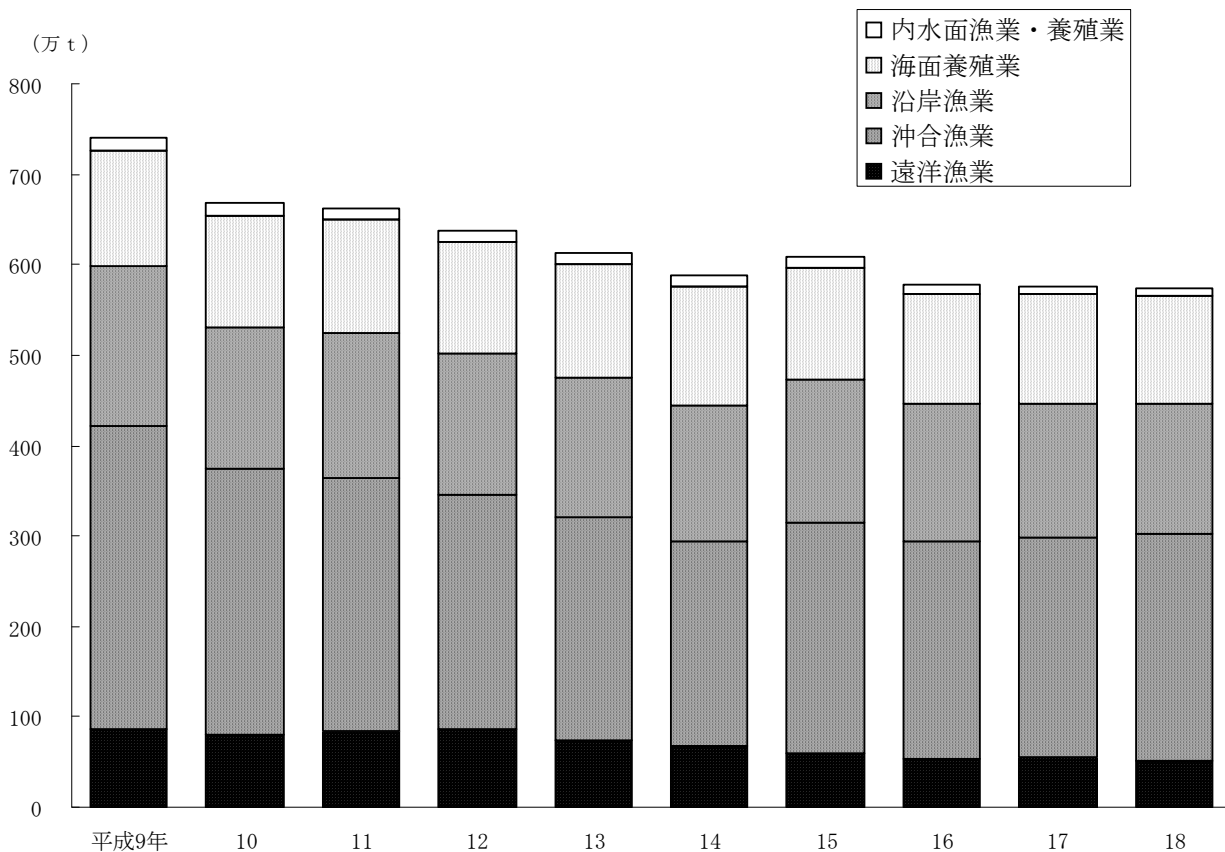
平成 18 年の我が国の漁業・養殖業の生産量は 573 万 4,975 t であった。

このうち、海面漁業の漁獲量は 446 万 9,531 t で、前年に比べ 1 万 2,641 t (0.3 %) 増加した。

これを部門別にみると、遠洋漁業は 51 万 8,324 t で、前年に比べ 2 万 9,461 t (5.4 %) 減少、沖合漁業は 249 万 9,975 t で、前年に比べ 5 万 5,500 t (2.3 %) 増加、沿岸漁業は 145 万 1,231 t で、前年に比べ 1 万 3,399 t (0.9 %) 減少した。

また、海面養殖業の収穫量は 118 万 2,584 t で、前年に比べ 2 万 9,403 t (2.4 %) 減少した。内水面漁業・養殖業の生産量は 8 万 2,860 t であった。

図 1 漁業・養殖業生産量の推移



(1) 海面漁業

海面漁業の漁獲量は446万9,531 tで、前年に比べ1万2,641 t (0.3%)増加した。

ア 部門別漁獲量

(ア) 遠洋漁業

漁獲量は51万8,324 tで、前年に比べ2万9,461 t (5.4%)減少した。

これは、遠洋底びき網等が増加したものの、遠洋まぐろはえ縄、遠洋かつお一本釣等が減少したためである。

(イ) 沖合漁業

漁獲量は249万9,975 tで、前年に比べ5万5,500 t (2.3%)増加した。

これは、沖合底びき網1そうびき、小型底びき網縦びきその他等が減少したものの、大中型1そうまき網その他等が増加したためである。

(ウ) 沿岸漁業

漁獲量は145万1,231 tで、前年に比べ1万3,399 t (0.9%)減少した。

これは、大型定置網等が増加したものの、ひき回し船びき網、その他の刺網等が減少したためである。

図2 海面漁業部門別主要漁業種類別漁獲量

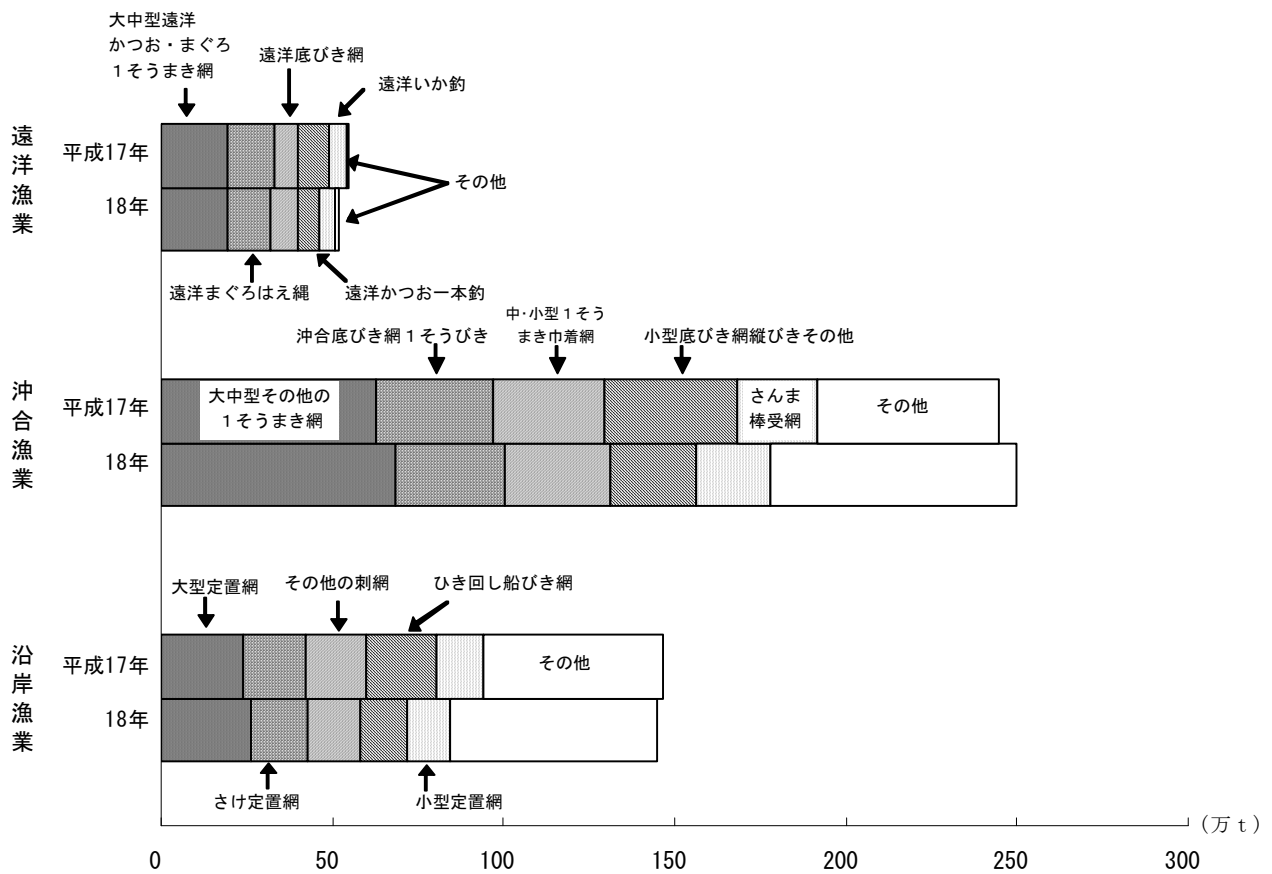


図3 海面漁業部門別漁獲量の推移

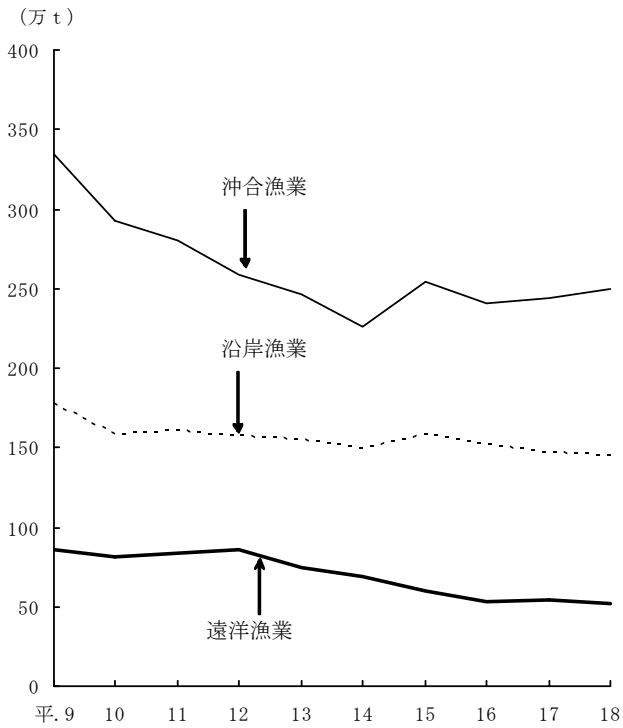


図4 遠洋漁業における主要漁業種類別漁獲量の推移

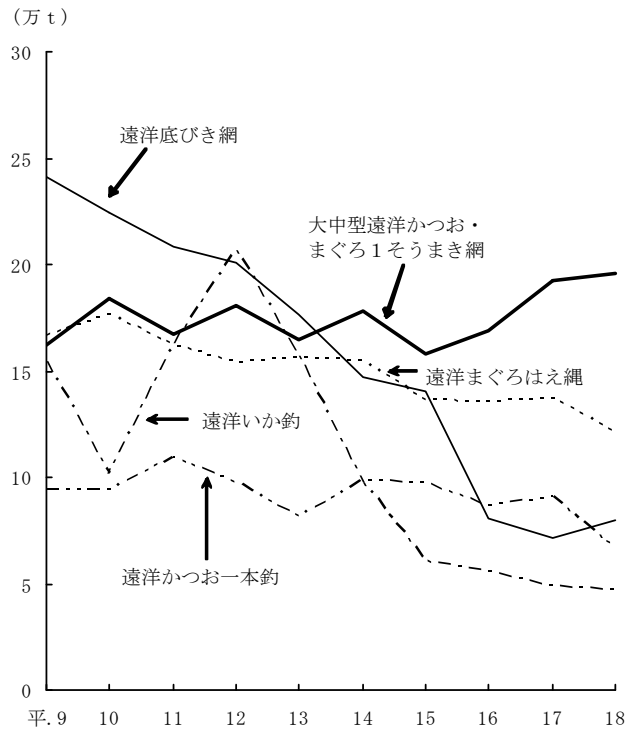


図5 沖合漁業における主要漁業種類別漁獲量の推移

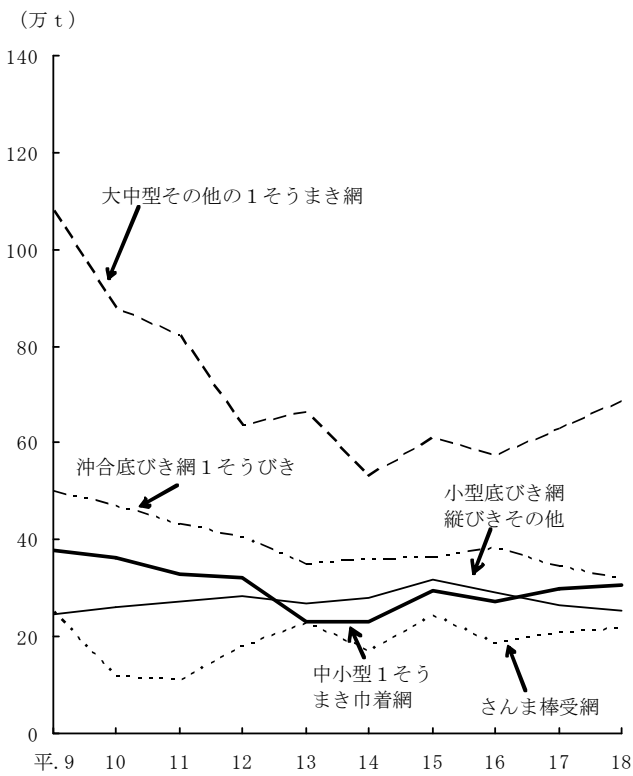
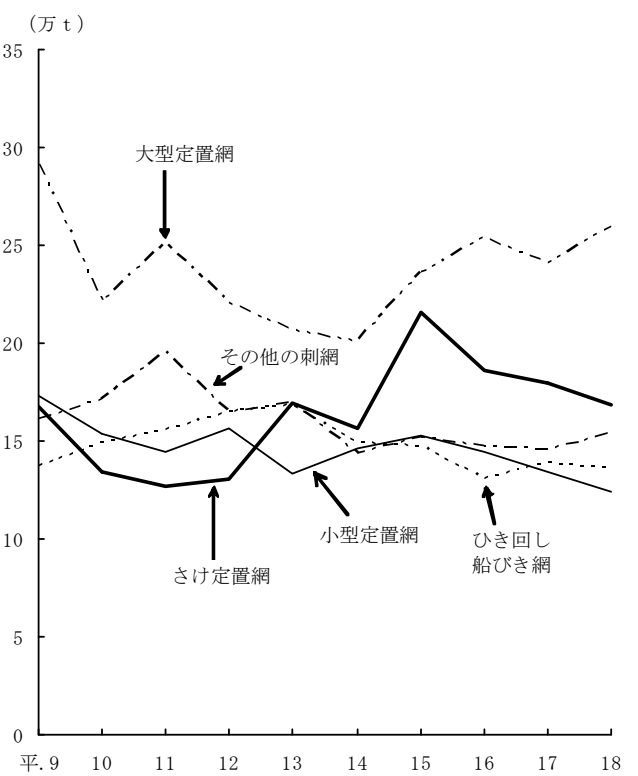


図6 沿岸漁業における主要漁業種類別漁獲量の推移

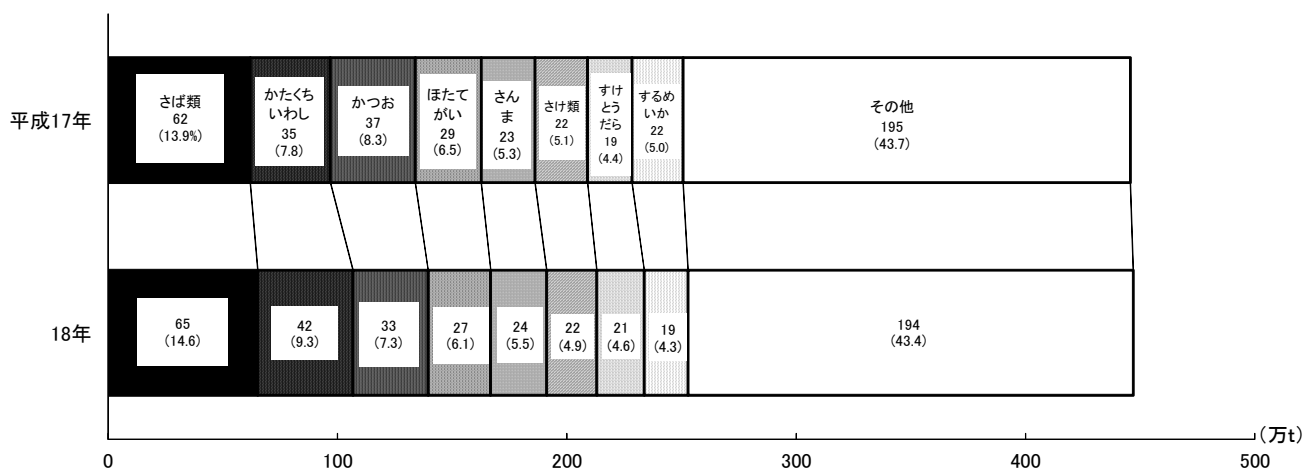


イ 主要魚種別漁獲量

海面漁業の主要魚種のうち、漁獲量が前年に比べて増加した魚種は、さば類、かたくちいわし、さんま、すけとうだらであり、減少した魚種はかつお、ほたてがい、さけ類、するめいかであった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、さば類が14.6%、かたくちいわしが9.3%、かつおが7.3%、ほたてがいが6.1%、さんまが5.5%、さけ類が4.9%、すけとうだらが4.6%、するめいかが4.3%となった。

図7 海面漁業主要魚種別漁獲量



(ア) さば類

漁獲量は65万2,397tで、前年に比べ3万2,004t(5.2%)増加した。

これは、小型定置網等による漁獲量が減少したものの、大中型その他の1そうまき網、大型定置網等による漁獲量が増加したためである。

(イ) かたくちいわし

漁獲量は41万5,497tで、前年に比べ6万6,850t(19.2%)増加した。

これは、中・小型1そうまき巾着網等による漁獲量が減少したものの、大型定置網、ひき回し船びき網等による漁獲量が増加したためである。

(ウ) かつお

漁獲量は32万8,044tで、前年に比べ4万2,340t(11.4%)減少した。

これは、遠洋かつお・まぐろまき網等による漁獲量が増加したものの、遠洋かつお一本釣、近海かつお一本釣等で漁獲量が減少したためである。

(エ) ほたてがい

漁獲量は27万1,928tで、前年に比べ1万5,558t(5.4%)減少した。

これは、気象の影響等により、漁獲量の大部分を占める北海道において、漁獲量が減少したためである。

(オ) さんま

漁獲量は24万4,586tで、前年に比べ1万135t(4.3%)増加した。

これは、さんま棒受網等による漁獲量が増加したためである。

(カ) さけ類

漁獲量は21万8,907 tで、前年に比べ1万372 t (4.5%) 減少した。

これは、さけ定置網等による漁獲量が減少したためである。

(キ) すけとうだら

漁獲量は20万6,794 tで、前年に比べて1万2,745 t (6.6%) 増加した。

これは、大型定置網等による漁獲量が減少したものの、その他の刺網等が増加したためである。

(ク) するめいか

漁獲量は19万317 tで、前年に比べ3万2,043 t (14.4%) 減少した。

これは、沿岸いか釣、沖合底びき網1 そうびき等による漁獲量が減少したためである。

図8 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位1位~4位)

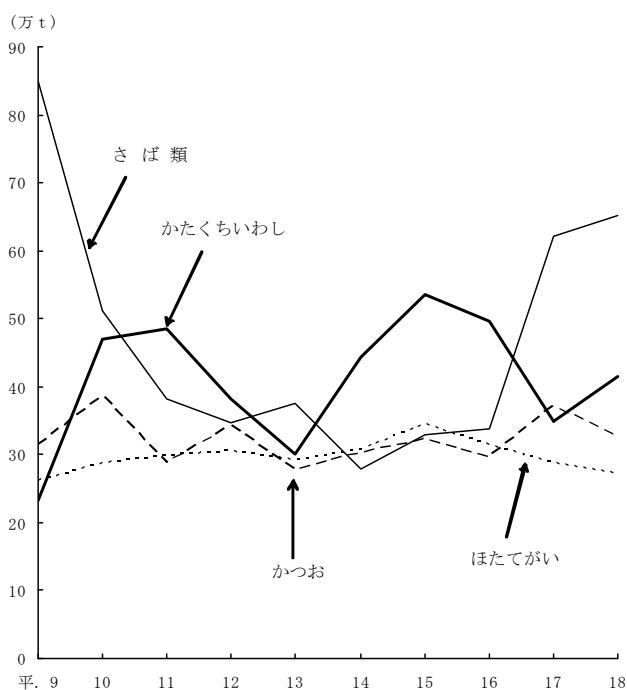
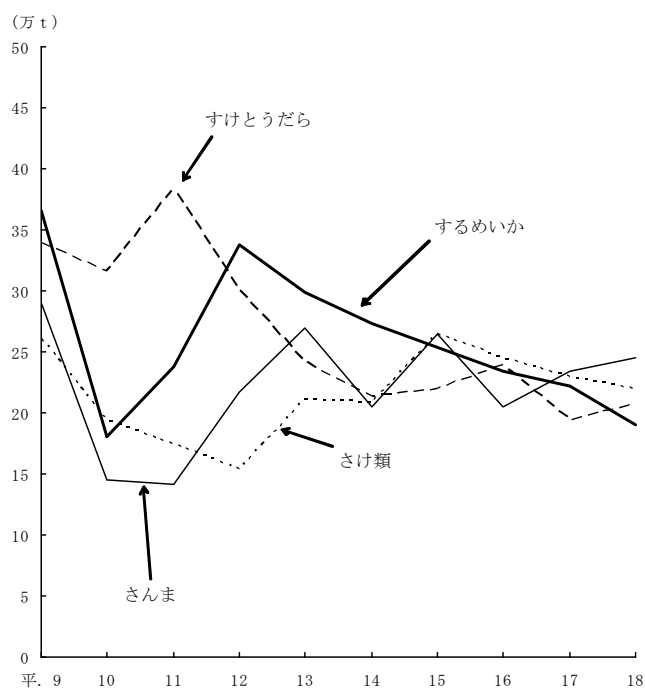


図9 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位5位~8位)



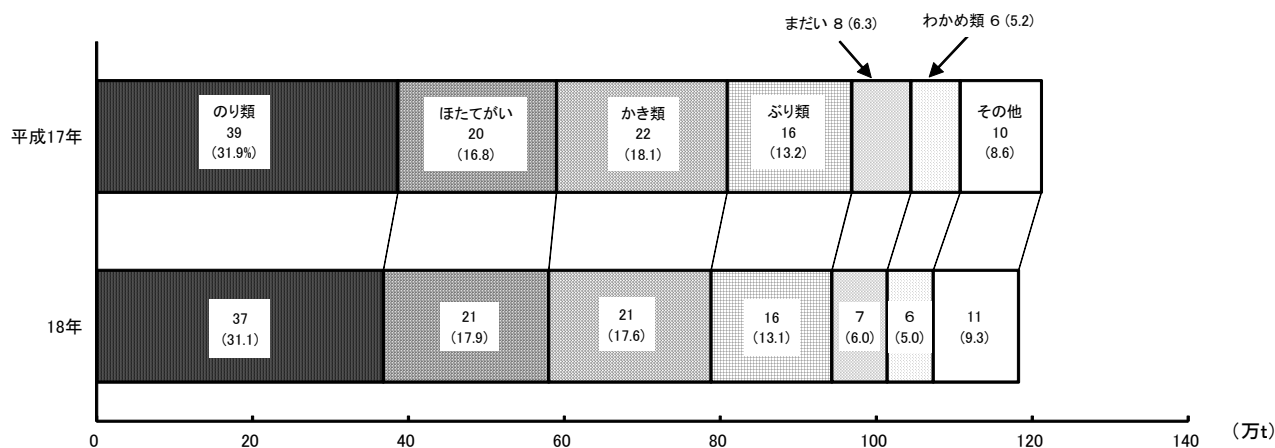
(2) 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は118万2,584 tで、前年に比べ2万9,403 t (2.4%) 減少した。

収穫量が前年に比べて増加した主な魚種は、ほたてがい、もずく類であり、減少した主な魚種は、のり類、かき類、まだいであった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類31.1%、ほたてがい17.9%、かき類(殻付き)17.6%、ぶり類13.1%、まだい6.0%、わかめ類5.0%となった。

図 10 海面養殖業魚種別収穫量



ア 魚類

収穫量は 25 万 8,383 t で、前年に比べ 1 万 538 t (3.9%) 減少した。

(ア) ぶり類

収穫量は 15 万 5,004 t で、前年に比べ 4,737 t (3.0%) 減少した。

これは、長崎県等で増加したものの、愛媛県、鹿児島県等で減少したためである。

(イ) まだい

収穫量は 7 万 1,141 t で、前年に比べ 4,941 t (6.5%) 減少した。

これは、宮崎県等で増加したものの、和歌山県、長崎県等で減少したためである。

(ウ) ぎんざけ

収穫量は 1 万 2,046 t で、前年に比べ 683 t (5.4%) 減少した。

イ 貝類

収穫量は 42 万 2,394 t で、前年に比べ 2,286 t (0.5%) 減少した。

(ア) ほたてがい

収穫量は 21 万 2,094 t で、前年に比べ 8,742 t (4.3%) 増加した。

これは、青森県で減少したものの、北海道、宮城県等で増加したためである。

(イ) かき類 (殻付き)

収穫量は 20 万 8,182 t で、前年に比べ 1 万 714 t (4.9%) 減少した。

これは、岡山県等で増加したものの、広島県、宮城県等で減少したためである。

図 11 海面養殖業魚種別収穫量の推移（魚類）

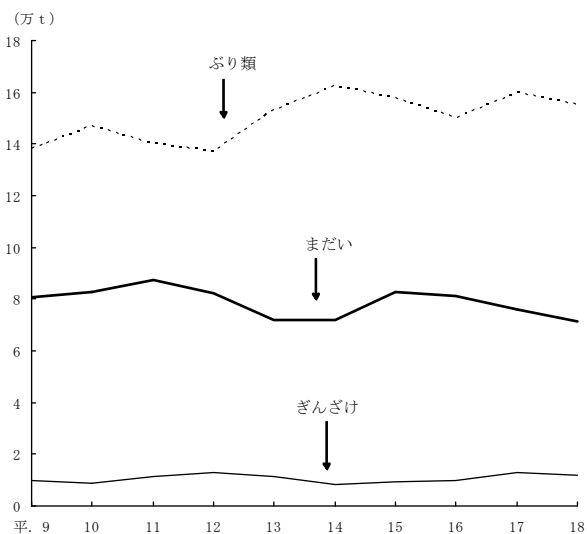
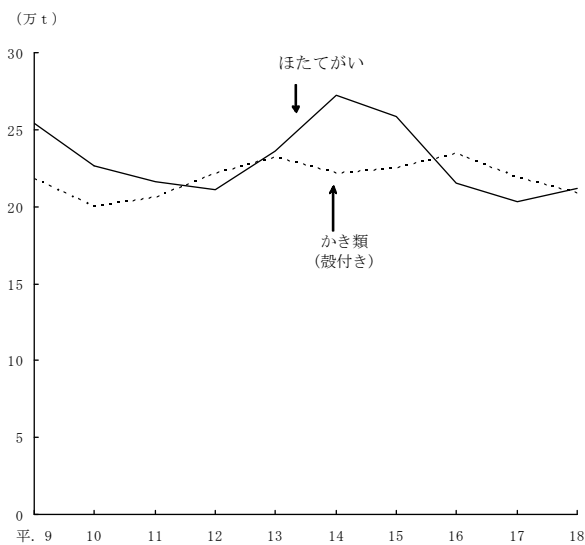


図 12 海面養殖業魚種別収穫量の推移（貝類）



ウ 海藻類

収穫量は 49 万 62 t で、前年に比べ 1 万 7,679 t (3.5%) 減少した。

(ア) のり類 (生重量)

収穫量は 36 万 7,678 t で、前年に比べ 1 万 8,896 t (4.9%) 減少した。

これは、福岡県等で増加したものの、香川県、兵庫県等で減少したためである。

(イ) わかめ類

収穫量は 5 万 9,092 t で、前年に比べ 3,990 t (6.3%) 減少した。

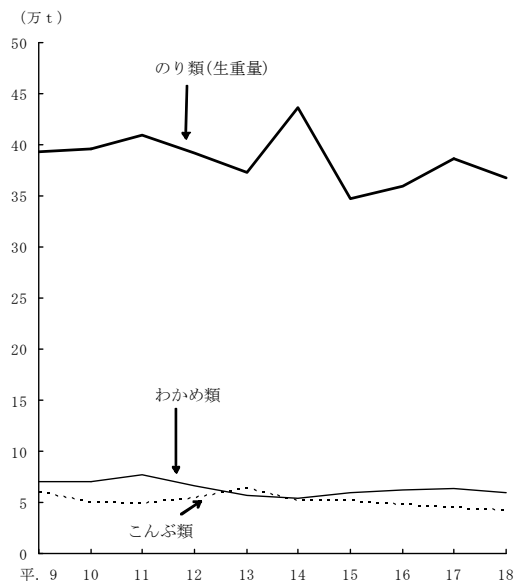
これは、兵庫県で増加したものの、徳島県、宮城県等で減少したためである。

(ウ) こんぶ類

収穫量は 4 万 1,339 t で、前年に比べ 3,150 t (7.1%) 減少した。

これは、長崎県等で増加したものの、岩手県、宮城県等で減少したためである。

図 13 海面養殖業魚種別収穫量の推移（海藻類）



(3) 内水面漁業

内水面漁業（全国の主要 106 河川及び 24 湖沼）の漁獲量は 4 万 1,701 t であった。

なお、平成 18 年調査より内水面漁業の調査範囲を、販売を目的として漁獲された量のみとし、遊漁者（レクリエーションを主な目的として水産動植物を採捕するもの）による採捕量は含めないこととしたため、前年対比を行わない。

ア 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は 2 万 2,703 t で、湖沼における漁獲量は 1 万 8,998 t であった。

イ 主要魚種別漁獲量

(ア) さけ類

漁獲量は 1 万 4,899 t であった。

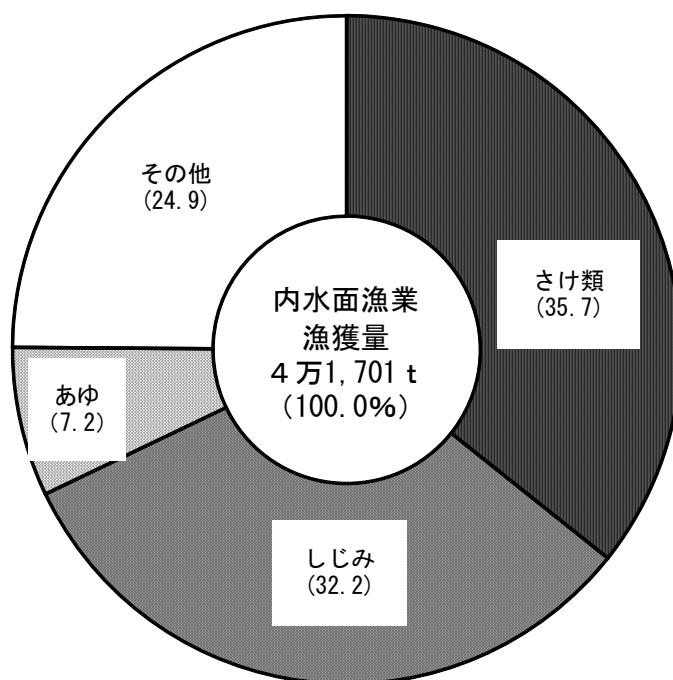
(イ) しじみ

漁獲量は 1 万 3,412 t であった。

(ウ) あゆ

漁獲量は 3,014 t であった。

図 14 内水面漁業魚種別漁獲量割合



(4) 内水面養殖業

内水面養殖業の収穫量は4万1,159 tで、前年に比べ440 t (1.1%) 減少した。

ア うなぎ

収穫量は2万583 tで、前年に比べ1,088t (5.6%) 増加した。

これは、愛知県、宮崎県等で増加したためである。

イ にじます

収穫量は7,583 tで、前年に比べ565 t (6.9%) 減少した。

これは、栃木県、新潟県等で減少したためである。

ウ あゆ

収穫量は6,270 tで、前年に比べ257 t (3.9%) 減少した。

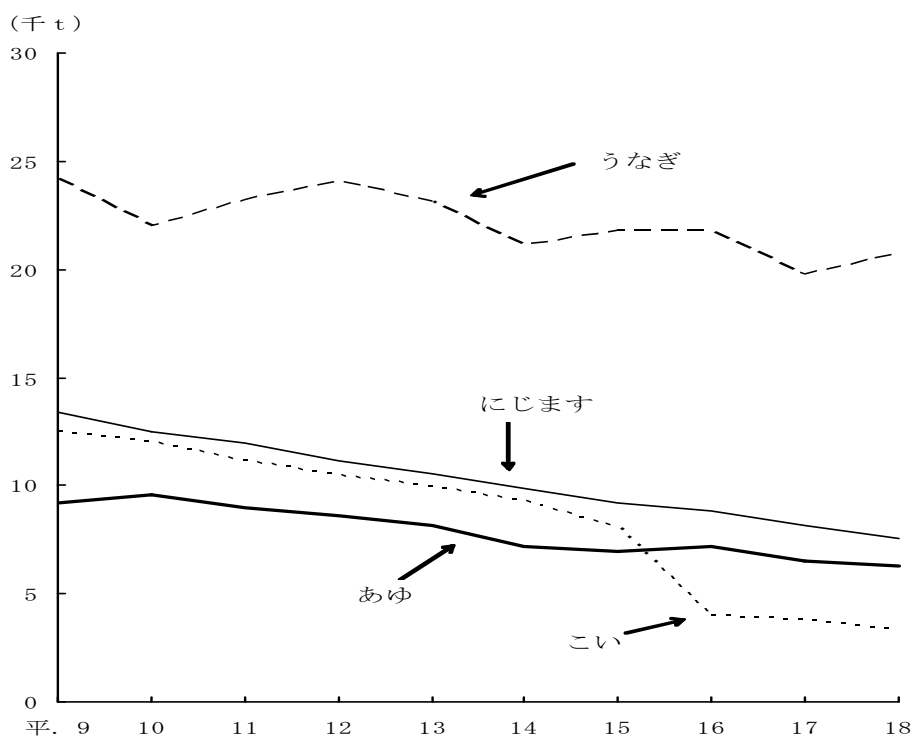
これは、和歌山県、滋賀県等で減少したためである。

エ こい

収穫量は3,306 tで、前年に比べ539 t (14.0%) 減少した。

これは、福島県等で減少したためである。

図 15 内水面養殖業主要魚種別収穫量の推移



2 漁業・養殖業生産額

平成18年の漁業生産額は1兆6,064億円で前年に比べ0.4%増加となった。

図16 漁業生産額の構成比

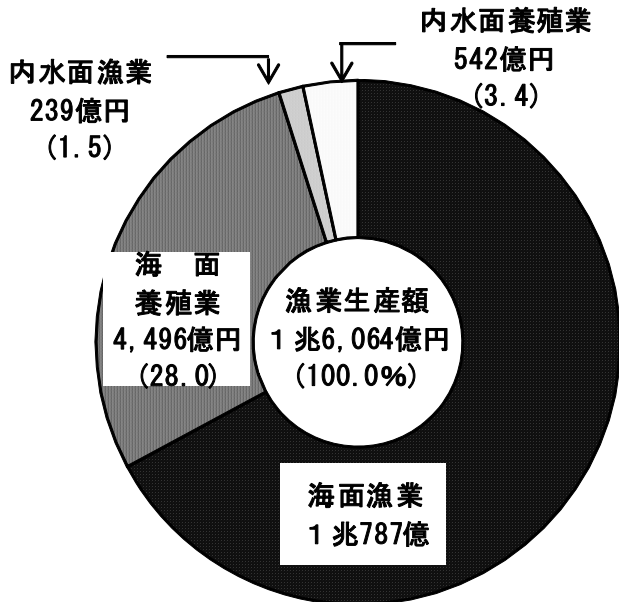
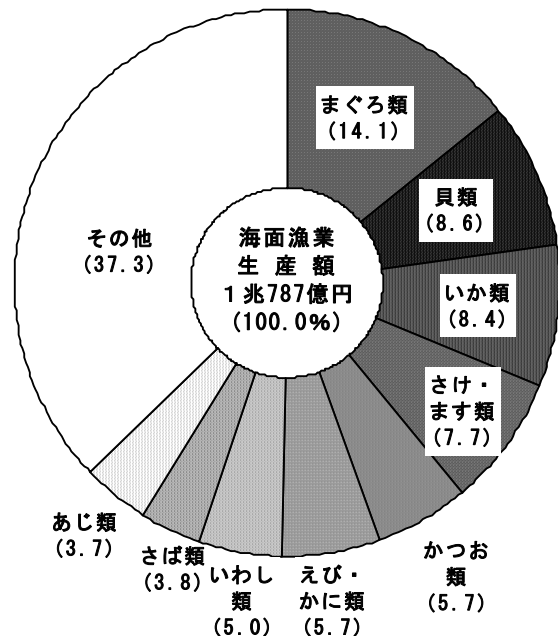


図17 海面漁業生産額の構成比



(1) 海面漁業

海面漁業の生産額は1兆787億円で、前年に比べ1.8%増加した。

ア 魚類の生産額は、7,478億円で前年に比べ3.4%増加した。

(ア) 生産額が増加した主な魚種

a さけ類

生産額は793億円で、漁獲量は減少したものの、価格が上昇したことから、前年に比べ24.4%増加した。

b さば類

生産額は413億円で、漁獲量が増加したことに加え、価格も上昇したことから、前年に比べ20.8%増加した。

c ぶり類

生産額は268億円で、価格は低下したものの、漁獲量が増加したことから、前年に比べ19.4%増加した。

(イ) 生産額が減少した主な魚種

a しらす

生産額は231億円で、価格は上昇したものの、漁獲量が減少したことから、前年に比べ17.3%減少した。

b いかなご

生産額は83億円で、漁獲量は増加したものの、価格が低下したことから、前年に比べ17.3%減少した。

c びんなが

生産額は173億円で、漁獲量が減少したことに加え、価格も低下したことから、前年に比べ8.3%減少した。

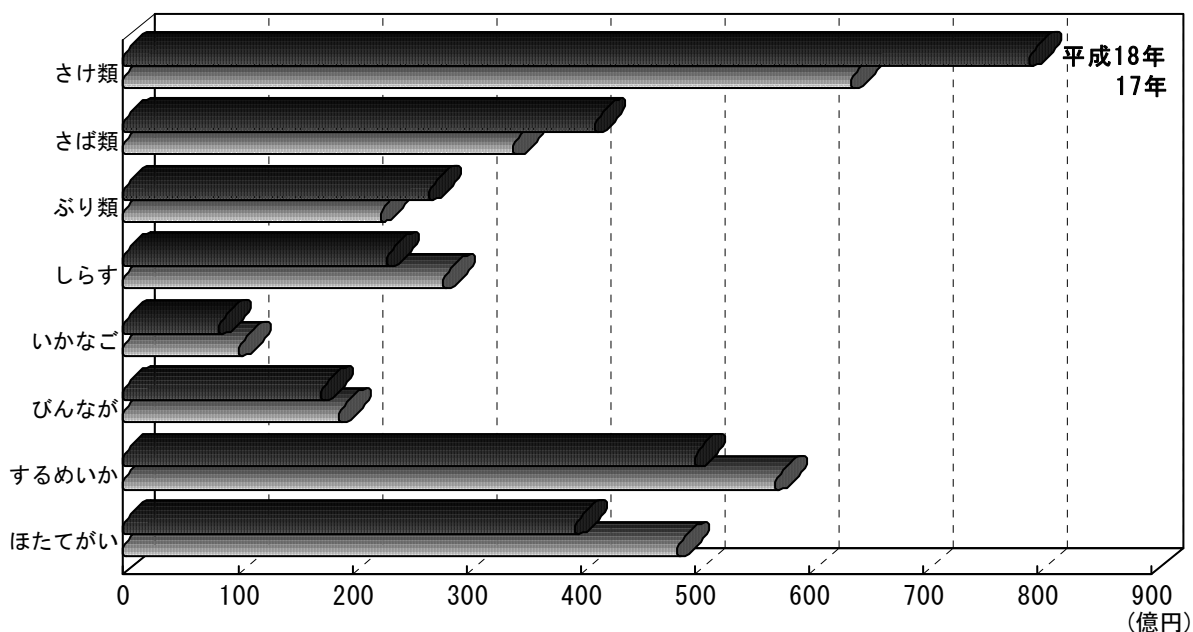
イ いか類の生産額は902億円で、前年に比べ9.4%減少した。

このうち、するめいかの生産額は500億円で、漁獲量が減少したことから、前年に比べ12.4%減少した。

ウ 貝類の生産額は932億円で、前年に比べ2.6%減少した。

このうち、ほたてがいの生産額は396億円で、漁獲量が減少したことに加え、価格も低下したことから、前年に比べ18.3%減少した。

図18 海面漁業の主要魚種別生産額



(2) 海面養殖業

平成18年の海面養殖業の生産額は4,496億円で、前年に比べ2.4%増加した。

ア 魚類養殖の生産額は2,145億円で、前年に比べ11.8%増加した。

このうち、ぶり類の生産額は1,174億円で、収穫量は減少したものの、価格が上昇したことから、前年に比べ11.3%増加した。

また、まだいの生産額は583億円で、収穫量は減少したものの、価格が上昇したことから前年に比べ19.2%増加した。

イ 海藻類養殖の生産額は1,123億円で、前年に比べ7.4%減少した。

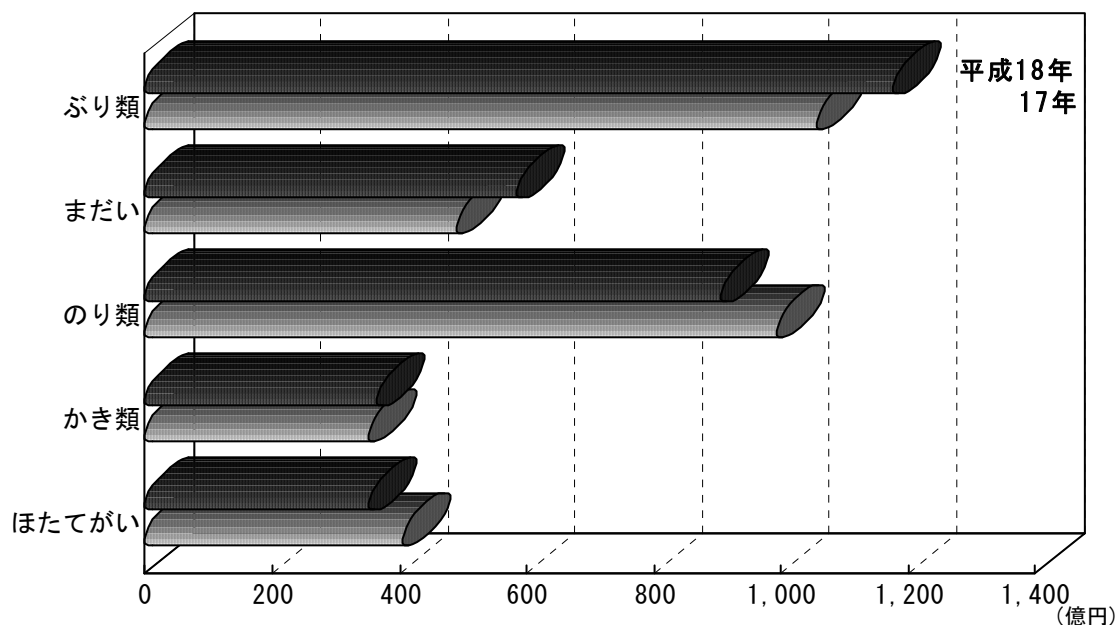
このうち、のり類の生産額は906億円で、収穫量が減少したことに加え、価格も低下したことから、前年に比べ8.9%減少した。

ウ 貝類養殖の生産額は728億円で、前年に比べ5.6%減少した。

このうち、かき類の生産額は363億円で、前年に比べ3.3%増加した。

一方、ほたてがいの生産額は352億円で、価格が減少したことから前年に比べ12.7%減少した。

図19 海面養殖業の主要魚種別生産額



(3) 内水面漁業・養殖業

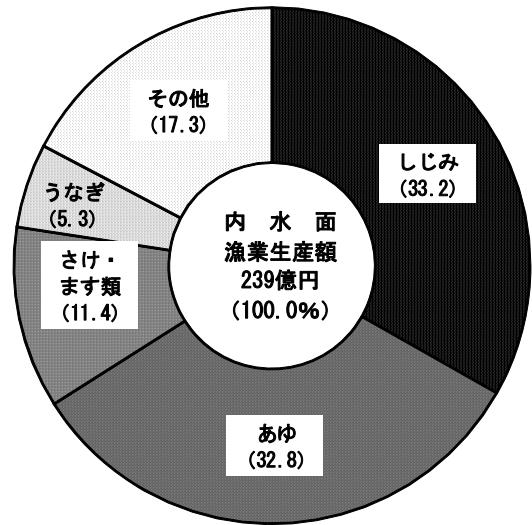
内水面漁業・養殖業の生産額は786億円となった。

なお、平成18年からは、内水面漁業生産統計調査の調査範囲を、販売を目的とした漁獲された量のみとし、遊漁者（レクリエーションを主な目的として水産動植物を採捕するもの）による採捕量を含めないこととしたことから、内水面漁業生産額には、遊漁者の採捕による生産額は含めていない。

ア 内水面漁業の生産額は239億円となった。

図20 内水面漁業生産額の魚種別構成割合

しじみの生産額は80億円、あゆは79億円、さけ・ます類は28億円、うなぎは13億円でこれらの魚種で内水面漁業生産額の8割を占めている。



イ 内水面養殖業の生産額は542億円で、前年に比べ4.5%増加した。

a うなぎ

生産額は302億円で、収穫量が増加したことに加え、価格も上昇したことから、前年に比べ11.2%増加した。

b ます類

生産額は96億円で、収穫量が減少したことから、前年に比べ4.2%減少した。

c あゆ

生産額は94億円で、収穫量が減少したことから、前年に比べ1.4%減少した。

図21 内水面漁業・養殖業の主要魚種別生産額

